

### 巻頭言 【臨床遺伝・ゲノム医療センター】って何しているの？

はじめまして。臨床遺伝・ゲノム医療センターの富永牧子と申します。

2020年4月より、当院に「臨床遺伝・ゲノム医療センター」が開設されました。

“遺伝…？ゲノム…？何だか難しそう…私には関係ないわ…”

“遺伝子調べたら何でもわかるんでしょ？何だか怖くて嫌だなあ…”

そんな声が聞こえてきそうな気がします。

確かに、私達全員が持っているけれど、目には見えない「遺伝子」という、ちょっと難しい話題ではありますが、患者さんの遺伝子の情報が、病気の診断や治療方針にも関係していることがあり、様々な科の診療で重要な役割を果たすものとなってきています。一方で、遺伝学的な検査というのは、検査を受けなければ治療が受けられないというものではありません。遺伝学的な情報は一生涯変わることはないものであり、またご家族や親せきとその情報を共有していることもあるため、検査を受けるかどうかは、ご本人によく考えていただく必要があります。

私達の外来は、遺伝学的な検査を受ける必要があるのか？受けたら何がわかるのか？受けなかったらどうなるのか？というようなことを、なるべくわかりやすくお話ししながら、皆さんと一緒に考えるところです。

大きく分けて以下の4つの部門がありますが、「臨床遺伝専門医」「認定遺伝カウンセラー」が中心になって、全ての部門に関わりながら診療を進めています。当センターでお手伝いできそうなことがあれば、気軽にご相談ください。



<臨床遺伝・ゲノム医療センター>

<助教 富永 牧子>

#### 遺伝カウンセリング外来

生まれつきの病気や、遺伝子が関わる病気・体質について、正確な情報を基に、不安や疑問について一緒に考えます。

「親戚に同じような病気の人があります」

「子どもに生まれつきの病気があるけれど、次の子への影響は？」…など、遺伝にまつわるご相談を広くお受けします。

#### がんゲノム外来

がん細胞の遺伝子情報を網羅的に調べて今後の治療に生かす「がん遺伝子プロファイリング検査」に対応します(保険適用)。この検査により新しい治療につながる確率は10~15%とまだ高くはないですが、これからのがん診療には不可欠な分野になります。

#### 出生前検査外来

出生前検査に関する遺伝カウンセリングを行っています。母体血胎児染色体検査(NIPT)、羊水検査などの出生前検査を検討している方は、必ず受診していただきます。

今月より専用サイトでのWEB予約がスタートしました！

#### フォローアップ外来

生まれつきの病気をお持ちの方の健康管理を行っています。小児科の患者さん達も、成人した時に困らないよう、年齢で区切ることなく対応します。関係各科との連携をとりながら「交通整理」のような役割を担っています。



院内でリーフレットを配布しています。  
是非お手に取ってみてください。



## 定年退職者よりご挨拶申し上げます

### 副院長 なるしま 成島 みちあき 道昭 教授

昭和大学を卒業し、医師生活を送ること約 40 年、横浜市北部病院並びに前任地である藤が丘病院を始め、多くのスタッフの皆様、患者及びご家族の皆様方には心より感謝申し上げます。

若かりし頃は、ただひたむきに、がむしゃらに患者の皆様方に接し、また何かの爪痕を残すことに必死でした。中堅ともなれば仕事もある程度順調に進むようになり、「現場はチームプレーだ」ということを肝に銘じ、チームの輪を大事にすることに心を砕いてきました。ヒトは一人では何もできない、その当たり前のことを自覚するだけで、自分のいる場所を俯瞰することもできたように思います。

北部病院で過ごした 14 年間は、医学教育や副院長としての病院管理に尽力して参りましたが、まだまだやり残したことは多く、自らの至らなさを大いに反省するばかりです。ただ、この貴重な経験は何物にも代えがたいものでもあり、感謝しかありません。

皆様、本当にありがとうございました。



### 臨床病理検査室 さかもと 坂本 ひろし 大 係長

臨床病理検査室の坂本です。お世話になった診療科の先生方、病院職員の皆様、協力いただいた検査室のスタッフに心より感謝いたします。「本当にありがとうございました。」

私は昭和 57 年（1982 年）に大学病院へ入職しましたが、一度退職し昭和 60 年（1985 年）に藤が丘病院へ再度入職しました。その後、大学病院、北部病院と異動し 35 年と長きにわたりお世話になりました。

入職時は血清検査室から始まり、藤が丘病院以降は輸血分野を専門として現在に至ります。その間、造血幹細胞移植、血漿交換業務に携わり、その経験から臨床工学技士免許や各種認定資格を取得することができました。また、各学会の研究委員などにも就任することができ、これらは皆様のご理解とご協力があったことだと思っています。

北部病院では「チーム医療の実践」を目指していますが、臨床病理検査室としても病院の一員として診療科ならびに患者さんのご要望に応えるよう意識し努めてまいりました。そのポリシーは後任の責任者へしっかりと引き継ぐ所存でいます。何なりとお申し付けください。

最後に北部病院の益々の繁栄と今後の皆様のご活躍をお祈りしております。





# リハビリテーション室 あおき 青木 いづみ 技師長

東日大震災の後に北部病院へ異動となり早 10 年。

この 10 年の間にリハビリテーション室も統括となり異動も当たり前となりましたが、昭和大学に保健医療学部が創設される以前に就職した療法士は各附属病院の採用であったため、まさか異動する日が来るとは思わず大学病院で 20 余年安穩と過ごして参りました。

リハビリテーション室も 10 年前の 7 名から PT・OT・ST 総勢 19 名、2021 年度には 21 名になります。「のぞみ得る最高の医療を行う」べく、今後もスタッフ一同精進を重ねてくれると思います。

北部病院の「まごころをもって患者さん中心のチーム医療を実践する」各科の医師・看護師等のメディカルスタッフをはじめ、すべての職員の一体感に支えられ、責任者という立場は初めてで力不足であった私ですが勤め上げることができました。

このような病院に努められたことを幸せに思い、皆様に感謝いたします。ありがとうございました。



# 医事入院課 おんだ 恩田 たけひろ 武広 係長

初めに長引くコロナ禍の中、感染拡大の防止、感染者の治療に尽力されている医師、看護師をはじめ診療の最前線にいる皆さん本当にお疲れ様です。新型コロナが 1 日も早く終息することを切に願っています。

私事ですがこのたび、3 月 31 日をもちまして定年を迎えることとなりました。昭和 63 年に昭和大学病院へ入職し、その後、藤が丘病院・学事部門（富士吉田キャンパス）・法人部門（給与厚生課）・歯科病院などでさまざまな部署を経験させていただきました。

平成 30 年 4 月に北部病院へ配属され、地域医療連携室では 1 年間に 128 の医療機関を訪問することができました。また、医師事務の派遣スタッフみなさんと協力しながら、先生方の事務負担が軽減できるよう努めてまいりました。3 年間と短い勤務となりましたが、在職中は大変お世話になりましたこととお礼申し上げます。皆様の益々のご活躍並びにご発展を心よりお祈りしております。





## 医事外来課 診療録管理室 すすき 鈴木 みさ 美佐さん

平成 10 年 7 月昭和大学病院の診療録管理室から、「北部病院開設準備室」に異動となり、最初の仕事は、カルテ室の図面からカルテ棚の配置とフォルダー幅から収容冊数の計算でした。ところが突然「これからは電子カルテだ」と。そこから私の仕事は施設関係に変更。病院の図面を広げて部署別に変更案を作成し打合わせ。病棟クランク経験が活かしました。ヘルメットかぶって工事現場にも入りました。

開院後から電子カルテに関わりますが、まだ開発途中でした。そこから診療情報管理士としての仕事が始まりました。入退院歴や退院サマリー一覧の要望。これが無いと医師は診断書作成時に入院期間が分からない、サマリーを作成しない。エクセルで台帳作成し、督促・集計に大変苦労しました。

北部開院準備から 23 年、昭和大学に就職してから 40 年間お世話になりました。大変貴重な体験もありがとうございました。



退職者よりご挨拶申し上げます

## 地域医療連携室 よりた 依田 とおる 透 室長



地域医療連携室長の依田です。2016 年 4 月にここ北部病院へ着任してから、早いもので 5 年が経ちました。地域連携の仕事は、初めてでありましたが、みなさまに助けられ何とかやって来られたかと思えます。

思い出に残ることとしては、医療連携では、医師とご一緒に回った医療機関訪問で、北部病院について多くの先生方とお話し合いができたこと、地域連携フォーラムで多数の参加者と顔の見える関係ができたことなどがあげられます。また、地域との交流では、都筑区民まつりで北部病院のテント前に検査体験を待つ市民の長い列ができたこと、自治会町内会長さんとの意見交換、子育て大学への参加など、たくさんあって言い尽くせません。

この 5 年間、本当に多くの人達に支えられご協力をいただいたことに深く感謝いたします。そして北部病院がいつまでも地域から愛され信頼される病院であることを心より祈っています。



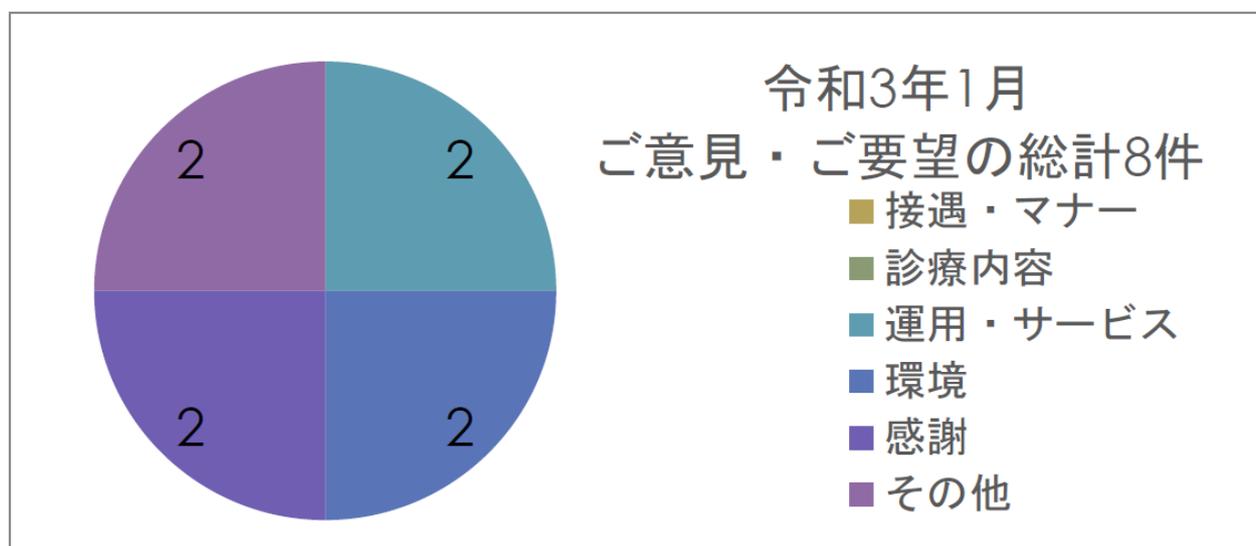
## 患者さんからのご意見・ご要望

日々患者さんよりいただきましたご意見・ご要望に関しましては、病院長及び関連する部署の責任者に報告し、改善に努めております。

今までのご意見の中で多くいただいたものや最近のご意見・ご要望を中心に改善策を掲載させていただきます。掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。

今後もお気付きの点やご要望をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

ご意見・ご要望	回答・改善等
<p>現在入院中です。 病室のトイレ内の手洗い場にも石鹸が欲しいです。 よろしくお願いいたします。</p>	<p>ご不便をおかけしております。 現在、各病室には洗面所に石鹸を設置しているところですが、トイレ内にも石鹸を用意することを検討してまいります。 なお、当院では衛生面を考慮し石鹸はすべて液体石鹸を採用しておりますことを予めご承知おき願います。 (回答部署：管理課)</p>
<p>9階のレストラン、以前は食事ができて楽しみでしたが、いつの間にか利用中止になり残念です。 夫婦で1ヵ月半おきに來ていますので、景色の良いレストランでまた食事がしたいです。</p>	<p>現在、新型コロナウイルス感染症予防対策の一環として、一般の方々の9階レストランのご利用はご遠慮いただいております。 今後、新型コロナ禍の収束後に改めて再開のご案内をさせていただきますので、今しばらくお待ちいただけますよう、よろしくお願いいたします。 (回答部署：管理課)</p>



## ひな祭りの病院食（夕食）について

（栄養科 森下 美智子）

日々の寒さの中にも、どこことなく春の兆しを感じられるこの頃です。3月3日は、ひな祭り。旧暦では桃の花が咲く頃だったことから桃の節句とも言われています。節句菓子の1つ「ひなあられ」、関東では米のような細長い形で甘い風味。関西では、丸い形のお醤油味。諸説ありますが、関東のひなあられは昔、ひな祭りを外でお祝いした際に炒った米を持ちより食べたとのこと。関西の丸いあられは、ひし餅を小さく砕いて炒ったものが始まりだと言われています。

当院も3月3日夕食に「ひな祭り献立」を提供させていただきます。ちらし寿司は、えび（腰が曲がるまで長生き）や蓮根（見通しがいい）など縁起の良い食材を使用しており、肉の旨味を閉じ込めお野菜と一緒に煮込んだ治部煮（じぶに）、また旬の菜の花のお浸し、春らしい色彩の清汁、そしてひなあられをご用意させていただきます。

三寒四温の時節柄、お身体大切にお過ごしください。



＜昨年度のひな祭りの病院食＞



## 編集後記

早いもので、あっという間に年度末の3月になってしまいました。あわただしい時期ではありますが、近頃は吹き去る風の中に暖かな春の息吹が感じられるようになってきました。私は、自然を楽しむのが大好きです。海よりは山派なのですが、新型コロナウイルスが流行してから、趣味の山登りにもいけず、「心も体も自然に癒されたい！！」と欲しています。そこで、近くの神社とお寺を散歩して、ベンチにすわり木や空を眺めたり、風の音を聞きながら目を閉じてみたり、美味しい空気（とまではいきませんが）を沢山吸って、深呼吸するだけでもとっても癒されました。森林浴をすると体内のストレスホルモンが低下し、免疫能が高まることが研究で分かっています。自粛疲れ、家事疲れ、仕事疲れのみなさん、ぜひ緑あふれるお寺や神社、公園等でゆっくりと春を楽しんでみてはいかがでしょうか。

（看護部 次長 佐々木 舞子）

北部病院だより 第153号  
2021年3月1日発行

発行責任者 門倉 光隆（昭和大学横浜市北部病院長）  
編集責任者 緒方 浩顕（広報委員会 委員長）  
発行 昭和大学横浜市北部病院

〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1  
電話 045-949-7000(代表)  
URL : <http://www.showa-u.ac.jp/SUHY/index.html>  
北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。

